

小学6年生の中学校登校を実施

9月12日(木)にゆう小6年生が、「中学校登校」を経験しました。この日は、オリエンテーションに続き、夕中の種市竜太教諭による理科、伊香あすか教諭による美術の体験授業を受けました。11月には「総合的な学習の時間」への参加、12月には「絆づくり集会」、1月には2回目の中学校登校を計画しています。



夕中の種市竜太教諭(理科)の授業
実験を取り入れた授業に意欲的に参加していました。

なぜ中学校登校を行うのか?



夕中の伊香あすか教諭(美術)の授業
鉛筆による表現の可能性を追求していました。

入学前に中学校に登校することは、小学生の進学後の期待感を高める効果があります。小学校卒業までの間に、その後の学校生活についての見通しをもつことができます。また、校舎の様子や授業の様子などから、不安を解消し、いわゆる「中1ギャップ」を和らげることも考えられます。回数を増やすことで、小中の段階間の接続を円滑に進めることが期待できます。

小中一貫教育を導入している学校の事例では、「1週間などまとまった期間を中学校の校舎で小学校と同じように担任の授業を受ける」「毎週金曜日は中学校登校とし中学校の先生の授業を受ける」「中学校に直接登下校する」「児童会・生徒会が主体となった異学年交流行事を行う」といった取組があります。



いずれの取組も、校舎の設置されている状況や各校の教育課程(年間の計画)を踏まえ、創意工夫しながら中学校への体験登校を行っています。夕中には空き教室がなく、小学生の登校時には、時間割を工夫しながら迎え入れています。できる範囲で進めていくことが持続可能な小中一貫につながります。

連携から一貫へ

「一貫教育になったというけれど何が変わったの？」
そのように思われている地域・保護者の皆様が多い
のではないのでしょうか。おそらく皆様の目に映る学校の
風景は、何も変わっていないと思います。

今、両校で取り組んでいることは、小中連携の取組
です。表面で紹介した「小6の中学校登校」など、合同
事業部会を中心に進めている連携の取組を充実させ
ることが当面の目標です。



中学校の美術室で過ごす小学生。環境に慣れることも
子どもたちにとっては、中学校生活への見通しをもつこ
とができ、安心感につながります。

何をしていたら一貫教育？

これまでの一貫教育の先行事例から、「小学校で学習した内容で課題が残っている事項を中学校入学前に教員間で共有し、中学校の指導に生かす」ことや、「重点的に取り扱う内容を事前に小中の教員が設定する」など、学習面での効果が報告されています。また、連携の取組は、「児童生徒の規範意識の向上」「自尊感情の高まり」がみられるなど、豊かな心の育成にもつながっています。

この先、「連携の充実から一貫教育へ」と取組の質を高めていくことが大切となります。「目に見えて変わる」として感じることは少ないかもしれませんが、指導にあたる教員が、「子どもを9年間で育てる」意識をもつことで、長いスパンで子どもたちの学びを深めることを期待するものです。

一貫教育に効果的な学校の取組

両校では、子どもたちの一貫した学びを実現するための方策として、令和5年度から小中合同研修を実施しています。

どの学校でも、1年を通して「校内研修」を行っています。この校内研修は、授業づくりを教員が話し合い、同じ方向性で進めることで、よりよい授業を目指そうとするものです。こうした取組を小学校と中学校が合同で行うことは、指導の一貫性という点で一貫教育の目的に大きく近づくものです。

見えているものは大きくは変わりませんが、取組の質が変化することにより、子どもたちへの教育の充実へと結びついていきます。

今後の小中連携の取組

11月 5日(火) 中1「総合的な学習の時間」発表会 小5参加

11月 8日(金) 中2「総合的な学習の時間」発表会 小6参加

11月18日(月) 中学校公開授業研究会兼第2回小中合同研修

夕中 辰田真心教諭(英語) 伊香あすか教諭(美術)の授業を公開

12月13日(金) 絆づくり生徒集会(小5,6年、中学生合同)

1月23日(木) 小6中学校登校 入学説明会